

修正前

## 令和3年度県民健康調査「健康診査」 (15歳以下) 結果報告

### <補足事項>

※小児健康診査の実施時期について

平成23年度 : 平成24年1月～3月

平成24年度～令和3年度 : 当該年度7月～12月

※肥満の割合は、受診時0歳～15歳の身長、体重の測定値から算出したBMIの標準偏差スコア(BMI-SDスコア)を用いて評価し、平成23年度から令和3年度までを比較した。

※血液検査では年齢による変動が大きく、また、0～6歳と7～15歳に区分しており、経年的な変化を比較することが出来ないため、断定的なことは言えない。

※集計結果の表章記号の規約は、厚生労働省の人口動態調査と同様に表記した。

計数のない場合 —

比率が微小(0.05未満)の場合 0.0%

※参考資料

平成23～26年度 ; 第21回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成27年度 ; 第26回検討委員会資料3-2「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成28年度 ; 第30回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成29年度 ; 第34回検討委員会資料2-3「健診項目別受診実績基礎統計表」

平成30年度 ; 第37回検討委員会資料4-4「健診項目別集計結果」

令和元年度 ; 第41回検討委員会資料3-4「健診項目別集計結果」

令和2年度 ; 第44回検討委員会資料4-4「健診項目別集計結果」

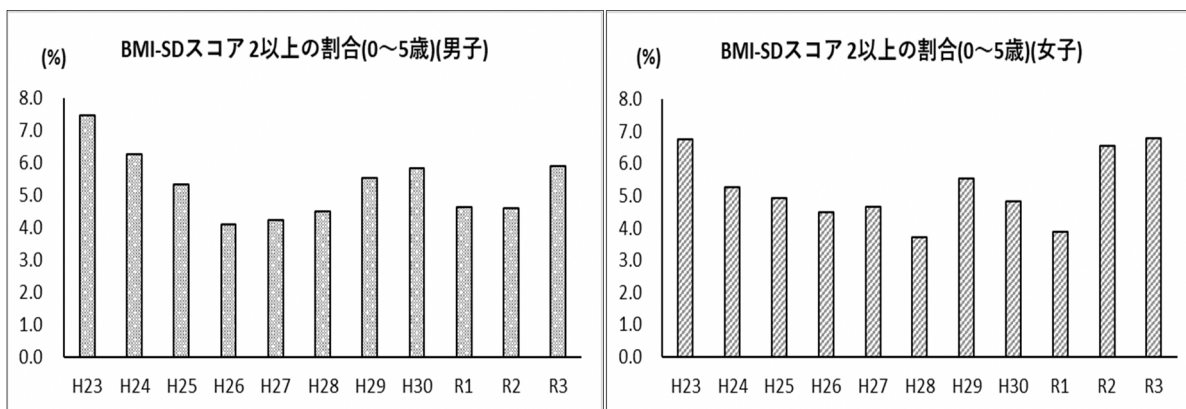
# 身体検査（BMI-SD スコアによる肥満の割合）

## 1 結果

### 【受診時0歳～5歳】

受診時0歳～5歳男子の肥満（BMI-SDスコア $\geq 2$ ）の割合は、平成23年度が最も多く、平成26年度にかけて減少傾向がみられ、その後は一定の傾向を示さなかった。

受診時0歳～5歳女子の肥満（BMI-SDスコア $\geq 2$ ）の割合は、平成23年度が最も多く、平成28年度にかけて減少傾向がみられ、その後は一定の傾向を示さなかった。



### 【受診時0-5歳 男子】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	2,710	1,942	1,757	1,517	1,156	908	722	582	454	391	305
平均年齢	3.5	3.4	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.1	3.1	3.2	3.2
平均	0.627	0.398	0.405	0.326	0.322	0.335	0.283	0.288	0.265	0.346	0.323
標準偏差	1.011	1.082	1.032	1.033	0.989	1.029	1.047	1.103	1.096	1.038	1.053
SDスコア $\geq 2$ の割合 (%)	7.5	6.3	5.4	4.1	4.2	4.5	5.5	5.8	4.6	4.6	5.9

### 【受診時0-5歳 女子】

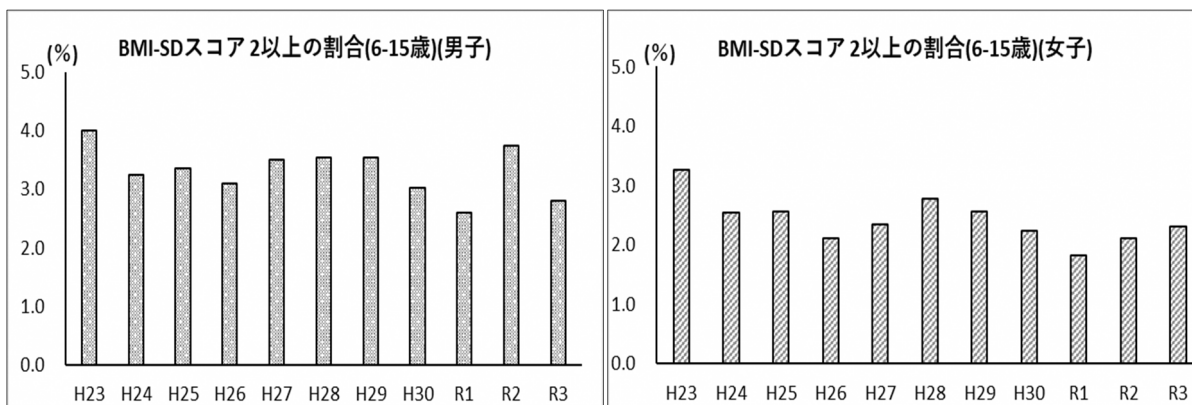
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	2,688	1,955	1,667	1,467	1,181	893	741	539	437	320	279
平均年齢	3.5	3.3	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.3	3.2	3.2	3.3
平均	0.558	0.332	0.304	0.278	0.314	0.317	0.339	0.291	0.265	0.447	0.447
標準偏差	0.984	1.018	1.010	0.991	0.988	0.965	1.018	1.011	1.037	1.028	1.008
SDスコア $\geq 2$ の割合 (%)	6.8	5.3	4.9	4.5	4.7	3.7	5.5	4.8	3.9	6.6	6.8

引用（計算用ファイル）：日本小児内分泌学会・日本成長学会成長研究委員会：

[http://jspe.umin.jp/medical/chart\\_dl.html](http://jspe.umin.jp/medical/chart_dl.html)（最終アクセス日：2021年11月18日）

## 【受診時 6 歳～15 歳】

受診時 6 歳～15 歳の肥満 (BMI-SD スコア  $\geq 2$ ) の割合は、男女とも平成 23 年度が最も多く、平成 26 年度にかけて減少傾向がみられ、その後は一定の傾向を示さなかった。



【受診時6-15歳 男子】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	6,318	4,042	3,484	3,165	2,711	2,367	1,981	1,650	1,266	1,016	914
平均年齢	10.9	10.6	10.6	10.6	10.7	10.7	10.6	10.8	11.0	11.3	11.4
平均	0.168	0.066	0.090	0.051	0.046	0.018	0.076	0.061	0.045	0.154	0.123
標準偏差	1.048	1.127	1.089	1.076	1.097	1.113	1.066	1.074	1.158	1.082	1.075
SDスコア $\geq 2$ の割合 (%)	4.0	3.2	3.4	3.1	3.5	3.5	3.5	3.0	2.6	3.7	2.8

【受診時6-15歳 女子】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
人数	6,209	3,862	3,322	3,020	2,510	2,204	1,915	1,614	1,259	992	878
平均年齢	11.0	10.7	10.6	10.6	10.6	10.6	10.5	10.7	11.1	11.2	11.4
平均	0.135	0.004	-0.001	-0.014	0.021	0.006	0.000	-0.011	-0.070	0.019	0.001
標準偏差	0.993	1.023	1.002	0.988	0.981	1.017	0.991	1.002	1.000	1.007	0.985
SDスコア $\geq 2$ の割合 (%)	3.3	2.5	2.6	2.1	2.4	2.8	2.6	2.2	1.8	2.1	2.3

引用 (計算用ファイル) : 日本小児内分泌学会・日本成長学会成長研究委員会 :

[http://jspe.umin.jp/medical/chart\\_dl.html](http://jspe.umin.jp/medical/chart_dl.html) (最終アクセス日 : 2021 年 11 月 18 日)

## 2 グラフの説明

身長、体重の測定値から算出した BMI の標準偏差スコア (BMI-SD スコア) 2 以上を肥満と判定した。

## 3 参考基準値

項目	肥満
BMI-SD スコア	$\geq 2$

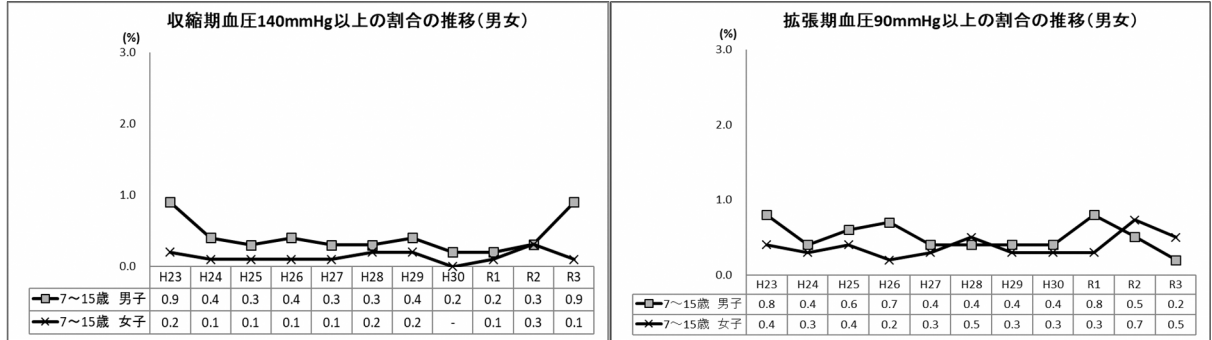
※日本人小児の体格を評価する際、2000 年度に厚生労働省および文部科学省が発表した身体測定値データから算出した基準値を今後も標準値として用いることが妥当とされている (日本小児内分泌学会・日本成長学会合同標準値委員会作成「日本人小児の体格の評価に関する基本的な考え方」)。

今回用いた標準値には、2000 年度の測定値から算出されたものを用いている。

# 身体検査（血圧）

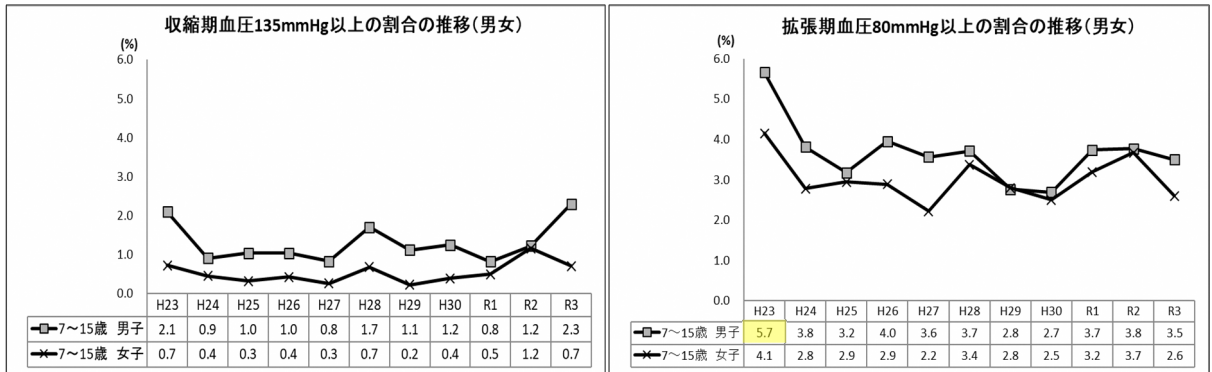
## 1 結果

収縮期血圧 140 mm Hg 以上の男子の割合は、平成 23 年度が最も多くその後減少傾向がみられたが、令和 3 年度にふたたび増加傾向がみられた。拡張期血圧 90 mm Hg 以上の男子の割合は、一定の傾向を示さなかった。収縮期血圧 140 mm Hg 以上の女子の割合は、大きな変化はみられなかった。拡張期血圧 90 mm Hg 以上の女子の割合は、一定の傾向を示さなかった。



収縮期血圧 135 mm Hg 以上の男子の割合は、平成 23 年度から令和 2 年度まで、減少と増加を繰り返す傾向がみられ、令和 3 年度は平成 23 年度よりやや増加する傾向がみられた。拡張期血圧 80 mm Hg 以上の男子の割合は、平成 23 年度が最も多く、その後令和 3 年度にかけて減少と増加を繰り返す傾向がみられた。

収縮期血圧 135 mm Hg 以上の女子の割合は、平成 23 年度から令和元年度までは大きな変化はなく、令和 2 年度にやや増加する傾向がみられたが令和 3 年度はふたたび減少する傾向がみられた。拡張期血圧 80 mm Hg 以上の女子の割合は、平成 23 年度が最も多く、その後減少と増加を繰り返す傾向がみられ、令和 3 年度は減少する傾向がみられた。



## 2 グラフの説明

収縮期血圧 140mmHg 以上および拡張期血圧 90mmHg 以上は、16 歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。収縮期血圧 135 mm Hg 以上および拡張期血圧 80 mm Hg 以上は、高血圧治療ガイドライン 2019 の小学校高学年の基準を用いた。

## 3 参考基準値

### 小児の年代別、性別高血圧基準

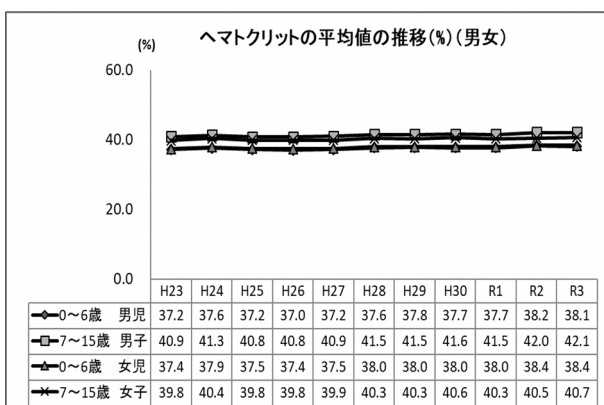
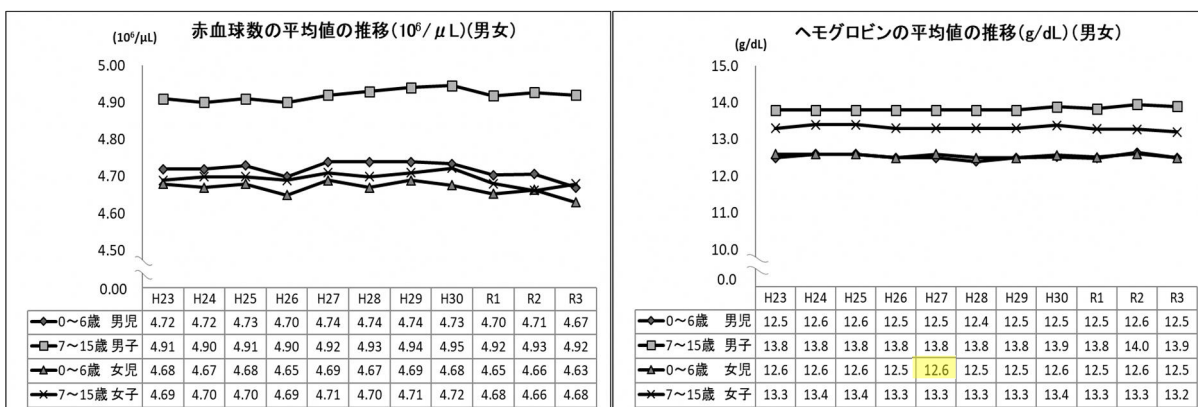
	収縮期血圧 (mm Hg)	拡張期血圧 (mm Hg)
幼児	≥ 120	≥ 70
小学校 低学年	≥ 130	≥ 80
高学年	≥ 135	≥ 80
中学校 男子	≥ 140	≥ 85
女子	≥ 135	≥ 80
高等学校	≥ 140	≥ 85

出典：日本高血圧学会作成「高血圧治療ガイドライン 2019」

# 末梢血液検査（赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット）

## 1 結果

赤血球数、ヘモグロビンおよびヘマトクリットは、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



## 2 グラフの説明

赤血球数、ヘモグロビン、ヘマトクリットの平均値の推移を記載した。

## 3 参考基準値

年齢	赤血球数(×10 <sup>12</sup> /L)	ヘモグロビン(g/dL)	ヘマトクリット(%)
生下時	5.25±0.40	16.6±1.5	53±4.5
1日	5.14±0.60	19.0±2.0	58±5.5
1週	4.86±0.60	17.9±1.5	56±6.0
1ヵ月	4.10±0.60	14.2±2.0	43±6.0
3ヵ月	3.70±0.35	11.3±1.0	33±3.0
6ヵ月	4.60±0.35	12.3±1.0	36±3.0
12ヵ月	4.60±0.40	11.6±0.75	36±1.5
1~4歳	4.70±0.35	12.6±0.5	38±1.5
4~12歳	4.80±0.30	13.0±1.0	40±2.5
成人男性	5.40±0.35	16.0±1.0	47±3.0
成人女性	48.0±0.30	14.0±1.0	42±2.5

※平均値±標準偏差

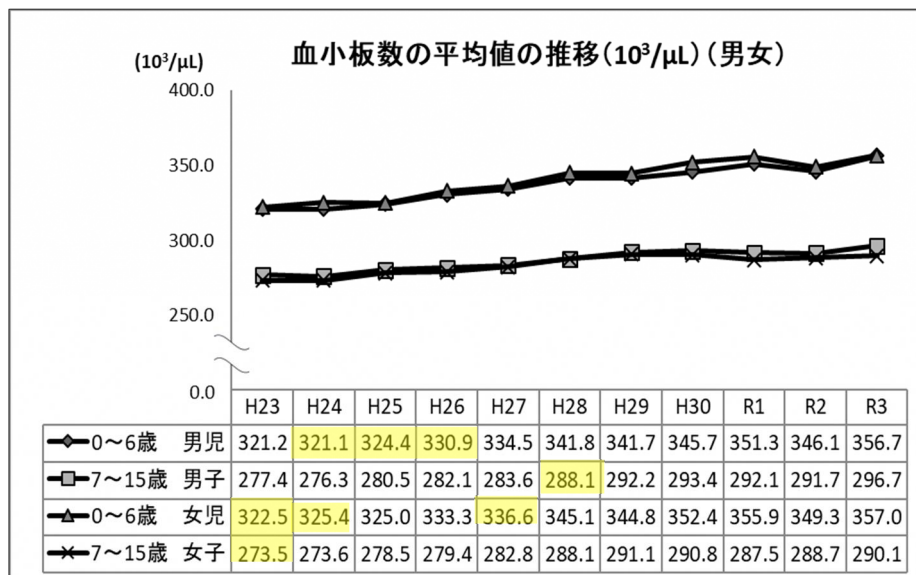
※赤血球数単位は国際単位を使用 (×10<sup>12</sup>/L=×10<sup>6</sup>/μL)

出典：小児臨床検査ガイド 第2版

# 末梢血液検査（血小板数）

## 1 結果

血小板数は、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



## 2 グラフの説明

血小板数の平均値の推移を記載した。

## 3 参考基準値

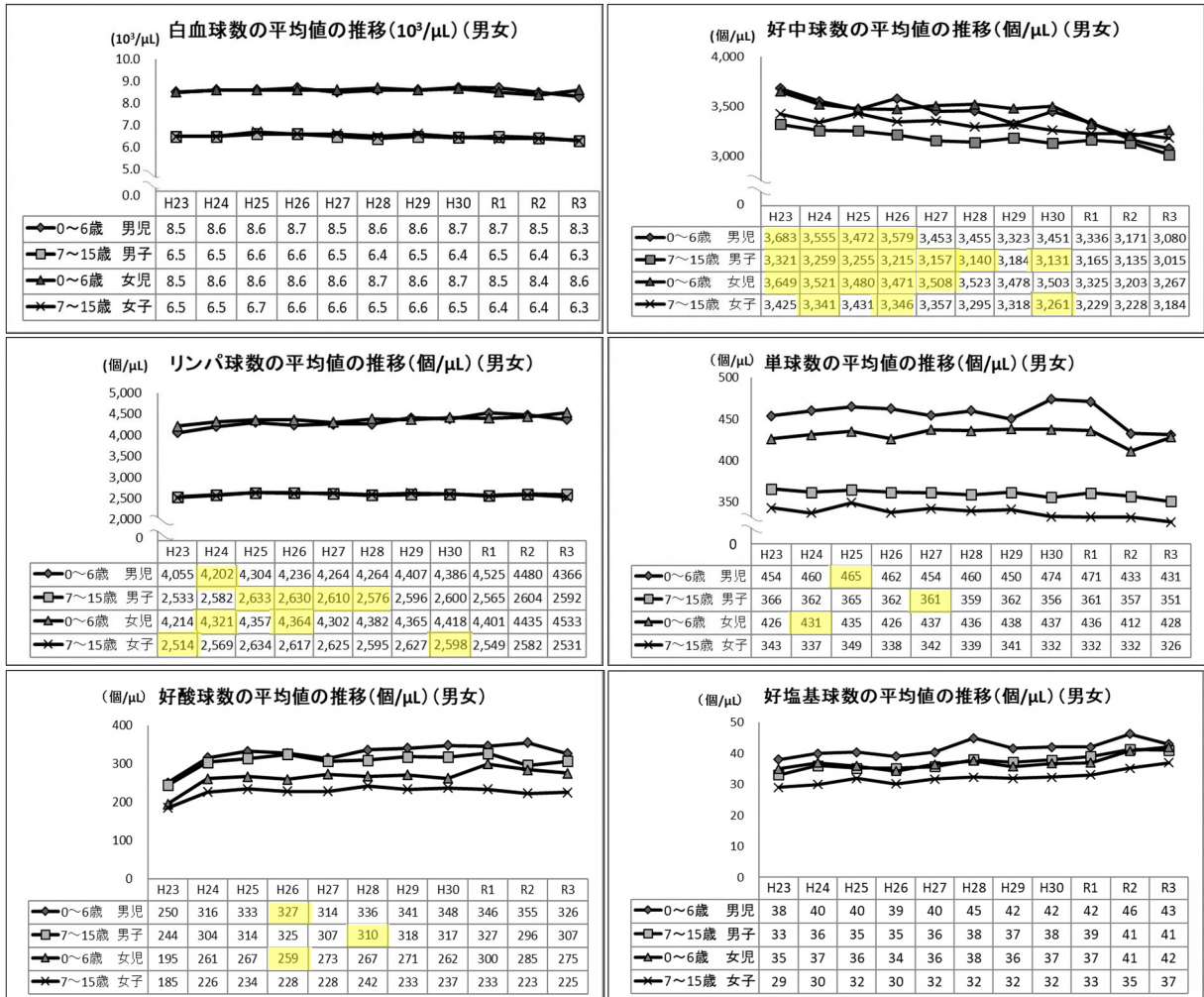
項目	基準値
血小板数(×10 <sup>9</sup> /L)	150～400

※血小板数単位は国際単位を使用(×10<sup>9</sup>/L=×10<sup>3</sup>/μL)  
出典：小児臨床検査ガイド 第2版

# 末梢血液検査（白血球数、白血球分画）

## 1 結果

白血球数および白血球分画は、男女ともに全ての年齢区分において大きな変化はみられなかった。



## 2 グラフの説明

白血球数、白血球分画の平均値の推移を記載した。

## 3 参考基準値

### 白血球数 (x10<sup>9</sup>/L)

年齢	平均値	95%信頼区間	年齢	平均値	95%信頼区間
出生時	18.1	9.0~30.0	1歳	11.4	6.0~17.5
12時間	22.8	13.0~38.0	2歳	10.6	6.0~17.0
24時間	18.9	9.4~34.0	4歳	9.1	5.5~15.5
1週	12.2	5.0~21.0	6歳	8.5	5.0~14.5
2週	11.4	5.0~20.0	8歳	8.3	4.5~13.5
1ヵ月	10.8	5.0~19.5	10歳	8.1	4.5~13.5
6ヵ月	11.9	6.0~17.5	16歳	7.8	4.5~13.0
			21歳	7.4	4.5~11.0

※白血球数単位は国際単位を使用 (×10<sup>9</sup>/L = ×10<sup>3</sup>/μL)

出典：小児臨床検査ガイド 第2版

### 好中球数、リンパ球数、単球数、好酸球数と割合

( $\times 10^3/\mu\text{L}$ , 範囲は95%信頼区間)

年齢	好中球数			リンパ球数			単球数		好酸球数	
	平均値	範囲	%	平均値	範囲	%	平均値	%	平均値	%
出生時	11.0	6.0~26.0	61	5.5	2.0~11.0	31	1.1	6	0.4	2
12時間	15.5	6.0~28.0	68	5.5	2.0~11.0	24	1.2	5	0.5	2
24時間	11.5	5.0~21.0	61	5.8	2.0~11.5	31	1.1	6	0.5	2
1週	5.5	1.5~10.0	45	5.0	2.0~17.0	41	1.1	9	0.5	4
2週	4.5	1.0~9.5	40	5.5	2.0~17.0	48	1.0	9	0.4	3
1ヵ月	3.8	1.0~9.0	35	6.0	2.5~16.5	56	0.7	7	0.3	3
6ヵ月	3.8	1.0~8.5	32	7.3	4.0~13.5	61	0.6	5	0.3	3
1歳	3.5	1.5~8.5	31	7.0	4.0~10.5	61	0.6	5	0.3	3
2歳	3.5	1.5~8.5	33	6.3	3.0~9.5	59	0.5	5	0.3	3
4歳	3.8	1.5~8.5	42	4.5	2.0~8.0	50	0.5	5	0.3	3
6歳	4.3	1.5~8.0	51	3.5	1.5~7.0	42	0.4	5	0.2	3
8歳	4.4	1.5~8.0	53	3.3	1.5~6.8	39	0.4	4	0.2	2
10歳	4.4	1.8~8.0	54	3.1	1.5~6.5	38	0.4	4	0.2	2
16歳	4.4	1.8~8.0	57	2.8	1.2~5.2	35	0.4	5	0.2	3
21歳	4.4	1.8~7.7	59	2.5	1.0~4.8	34	0.3	4	0.2	3

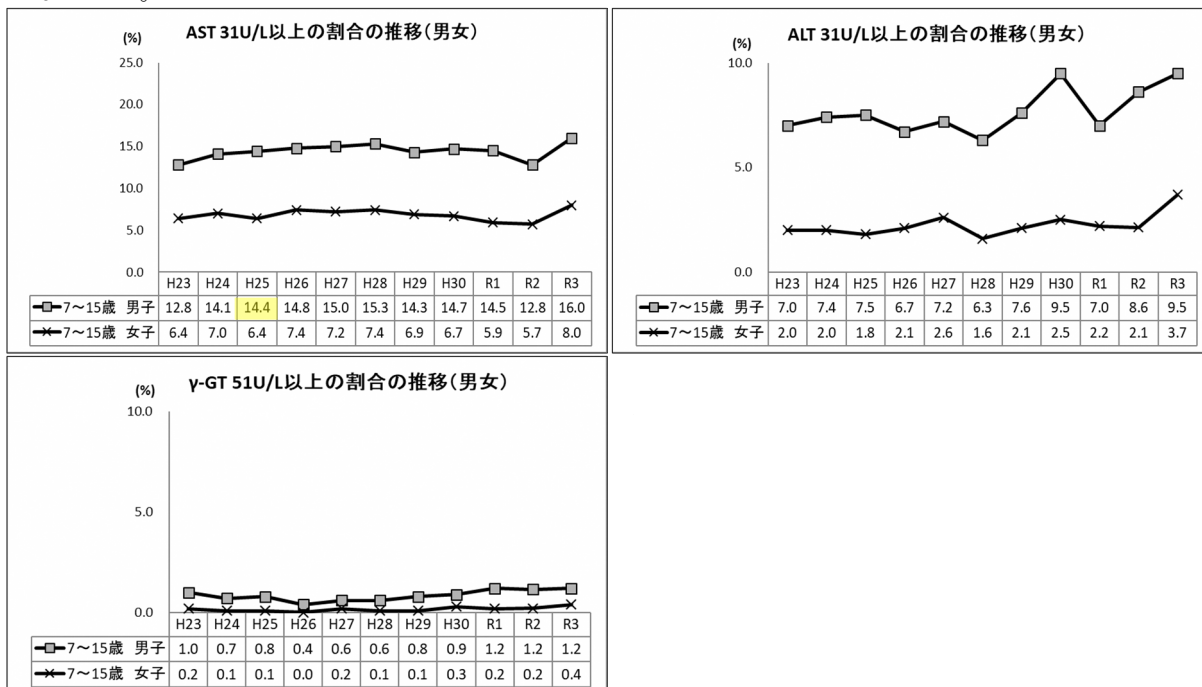
出典：小児臨床検査ガイド 第2版



# 肝機能 (AST、ALT、 $\gamma$ -GT)

## 1 結果

肝機能異常は、全年度で女子と比較して男子に多くみられた。男女とも大きな変化はみられなかった。



## 2 グラフの説明

AST 31 U/L 以上、ALT 31 U/L 以上および  $\gamma$ -GT 51 U/L 以上は、16 歳以上の集団健診・個別健診で使用している判定基準。

## 3 参考基準値

### AST (GOT) (U/L)

年齢	男性	女性
生後 1 ヶ月	19~61	20~71
生後 6 ヶ月	25~85	22~76
1 歳	23~51	22~50
3 歳	20~45	20~44
6 歳	17~39	16~38
12 歳	14~33	12~30
成人	30 以下	

### ALT (GPT) (U/L)

年齢	男性	女性
生後 1 ヶ月	10~50	11~68
生後 6 ヶ月	12~62	10~63
1 歳	5~25	5~31
3 歳	4~24	5~27
6 歳	4~23	4~25
12 歳	3~20	3~18
成人	30 以下	

### $\gamma$ -GT (U/L)

	男性	女性
成人	0~50	0~30
小児から若年者	生後 5~6 ヶ月で成人レベルになる	
新生児	正常上限の 5~6 倍	

出典：小児臨床検査ガイド 第2版

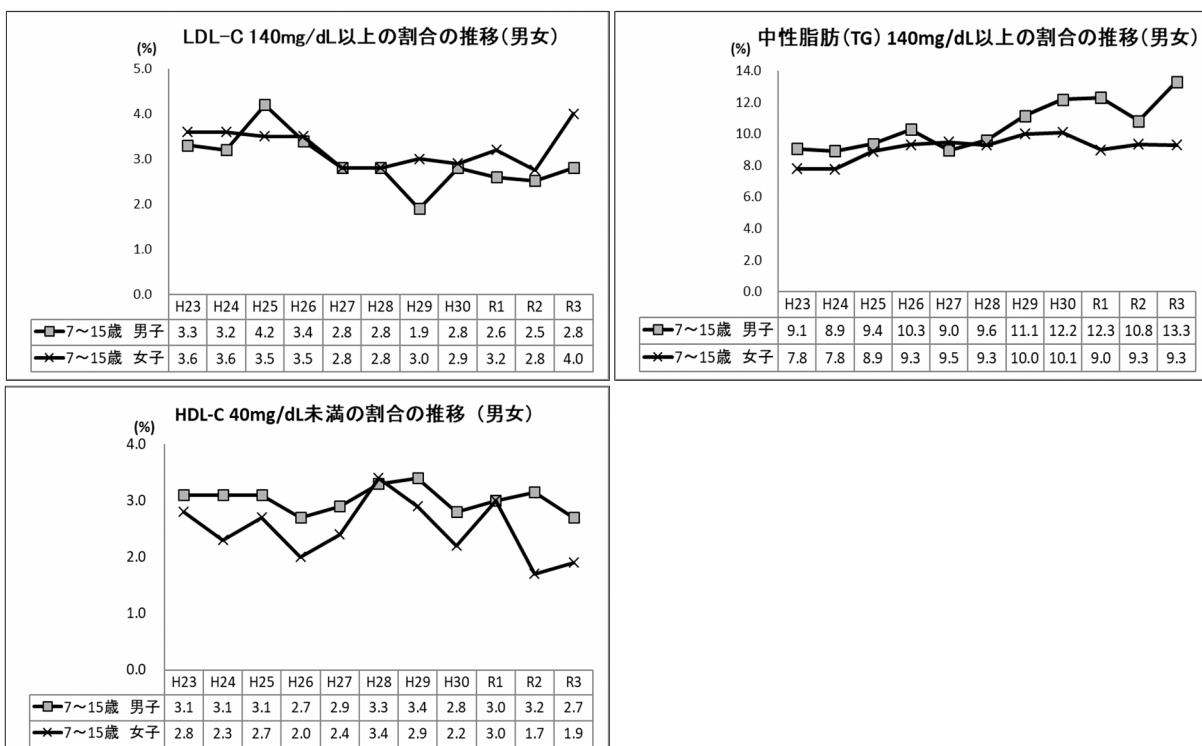
# 脂質 (LDL コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール)

## 1 結果

LDL-C 140mg/dL 以上の割合は、男女ともに増加と減少を繰り返す傾向にあったが、令和 3 年度に増加傾向がみられた。

中性脂肪 140mg/dL 以上の男子の割合は、平成 23 年度から令和 2 年度にかけて増加と減少を繰り返す傾向にあったが、令和 3 年度に増加傾向がみられた。女子は、大きな変化はみられなかった。

HDL-C 40mg/dL 未満の割合は、男女ともに増加と減少を繰り返し、一定の傾向を示さなかった。



## 2 グラフの説明

参考基準値をもとに、脂質異常症を判定した。

## 3 参考基準値

### 小児 (小中学生) の脂質異常症の基準 (空腹時採血)

LDL コレステロール (LDL-C)	140 mg/dL 以上
トリグリセライド (TG)	140 mg/dL 以上
HDL コレステロール (HDL-C)	40 mg/dL 未満

出典：日本動脈硬化学会作成「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022 年版」

# 糖（空腹時血糖、HbA1c）

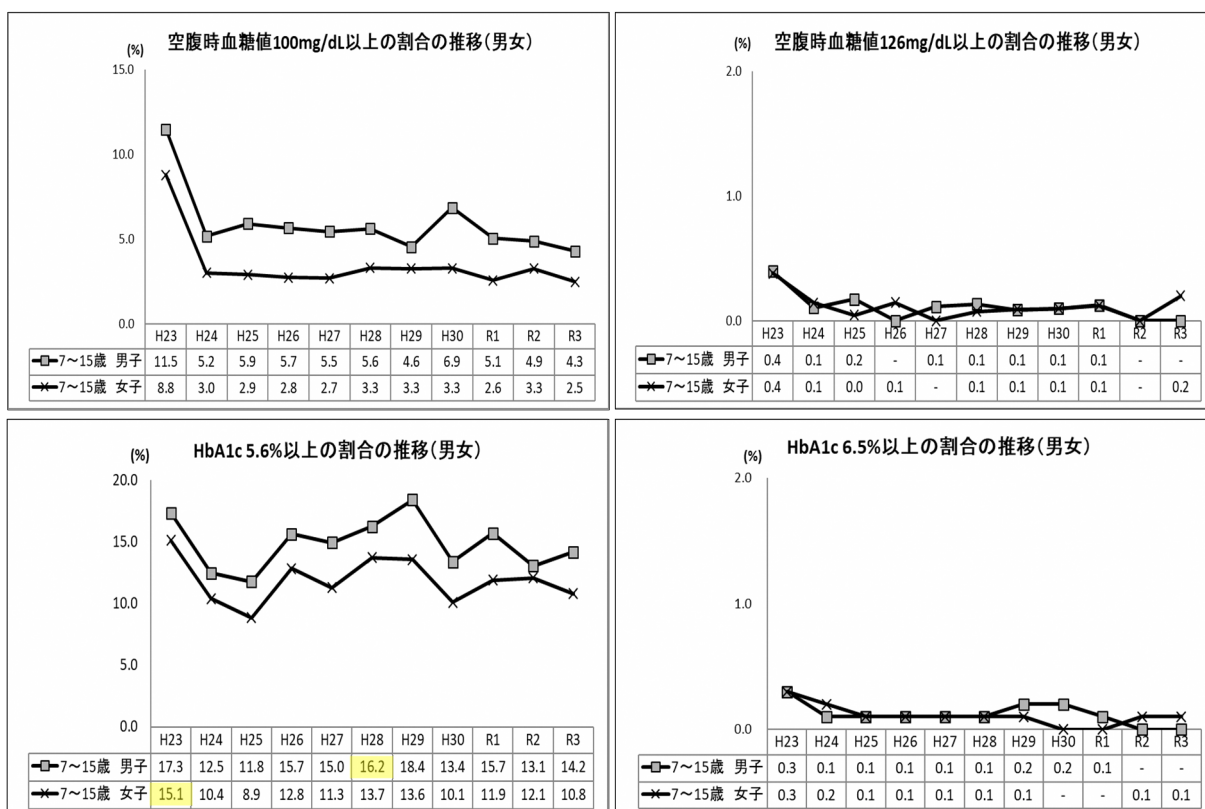
## 1 結果

空腹時血糖値 100mg/dL 以上の割合は、男女とも平成 23 年度から平成 24 年度にかけて減少し、それ以降は大きな変化はみられなかった。

空腹時血糖値 126mg/dL 以上の割合は、男女とも大きな変化はみられなかった。

HbA1c5.6%以上の割合は、男女とも減少と増加を繰り返す傾向にあった。

HbA1c6.5%以上の割合は、男女間で大きな差はみられず、また、男女とも大きな変化はみられなかった。



## 2 グラフの説明

参考基準値をもとに血糖高値（空腹時血糖値 100mg/dL 以上、HbA1c5.6%以上）、糖尿病（空腹時血糖値 126mg/dL 以上、HbA1c6.5%以上）を判定した。

小児は成人と同様の判定基準を用いる。

### 3 参考基準値

#### 空腹時血糖値および 75gOGTT による判定区分と判定基準

	血糖測定時間			判定区分
	空腹時		負荷後 2 時間	
血糖値 (静脈血漿値)	126 mg/dL 以上	◀または▶	200 mg/dL 以上	糖尿病型
	糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型
	110 mg/dL 未満	◀および▶	140 mg/dL 未満	正常型

- ①早朝空腹時血糖値 126 mg/dL 以上
- ②75 g OGTT で 2 時間値 200 mg/dL 以上
- ③随時血糖値 200 mg/dL 以上
- ④HbA1c が 6.5%以上

①～④のいずれかが確認された場合は「糖尿病型」と判定する。

- ⑤早朝空腹時血糖値 110 mg/dL 未満
- ⑥75 g OGTT で 2 時間値 140 mg/dL 未満

⑤および⑥の血糖値が確認された場合には「正常型」と判定する。

- 上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は「境界型」と判定する。

出典：日本糖尿病学会作成「糖尿病治療ガイド 2022-2023」より作成

※この資料では、日本糖尿病学会の「糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（2012）」にある「疫学調査：糖尿病の頻度推定を目的とする場合は、1 回の検査だけによる『糖尿病型』の判定を『糖尿病』と読み替えてもよい。この場合、HbA1c (NGSP)  $\geq 6.5\%$  (HbA1c (JDS)  $\geq 6.1\%$ ) であれば『糖尿病』として扱う。」の記載に基づき、「糖尿病型」を「糖尿病」と読み替えることとする。

#### 詳細な健診の項目（医師の判断による追加項目）を実施できる基準

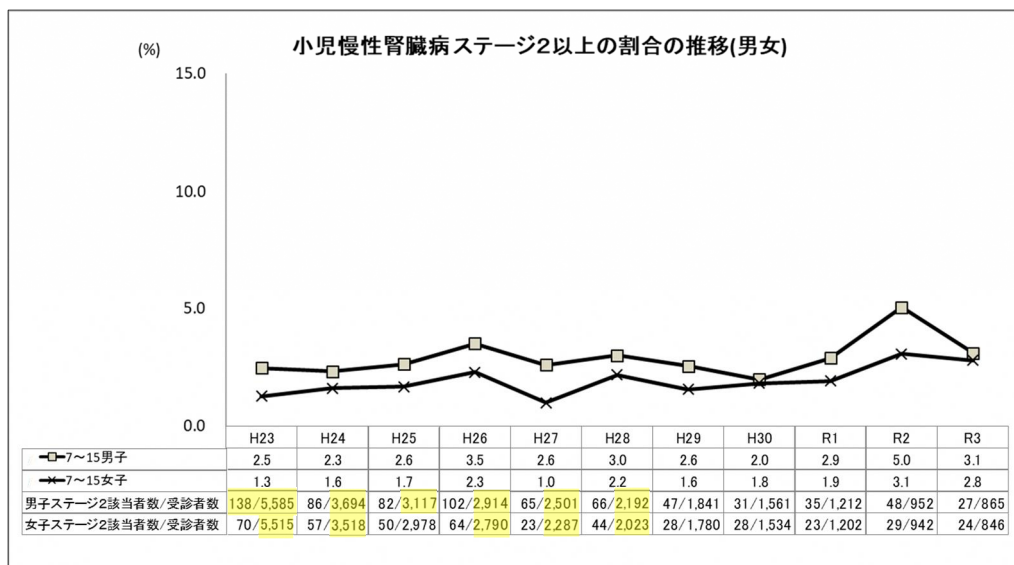
血糖	空腹時血糖値が 100 mg/dL 以上、HbA1c (NGSP 値) 5.6%以上 又は随時血糖値が 100 mg/dL 以上
----	---

出典：厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き（第 3.2 版）2021 年」より作成

# 腎機能（血清クレアチニン）

## 1 結果

小児慢性腎臓病ステージ2以上の割合は、男女とも平成23年度から令和3年度まで一定の傾向を示さなかった。



## 2 グラフの説明

参考基準値において、血清クレアチニンから判定した小児慢性腎臓病ステージ2以上の割合を示した。

## 3 参考基準値

血清クレアチニンによる慢性腎臓病（CKD）ステージ判定表（mg/dL）

年齢	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
7歳	0.50～	0.75～	1.49～	2.97～
8歳	0.54～	0.81～	1.61～	3.21～
9歳	0.55～	0.83～	1.65～	3.29～
10歳	0.55～	0.83～	1.65～	3.29～
11歳	0.61～	0.91～	1.81～	3.61～

年齢	ステージ2		ステージ3		ステージ4		ステージ5	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
12歳	0.71～	0.70～	1.07～	1.05～	2.13～	2.09～	4.25～	4.17～
13歳	0.79～	0.71～	1.19～	1.07～	2.37～	2.13～	4.73～	4.25～
14歳	0.87～	0.78～	1.31～	1.17～	2.61～	2.33～	5.21～	4.65～
15歳	0.91～	0.75～	1.37～	1.13～	2.73～	2.25～	5.45～	4.49～

出典：小児慢性腎臓病（小児CKD）小児の「腎機能障害の診断」と「腎機能評価」の手引き編集委員会作成  
 「小児慢性腎臓病（小児CKD）小児の『腎機能障害の診断』と『腎機能評価』の手引き（2019年発行）」より作成

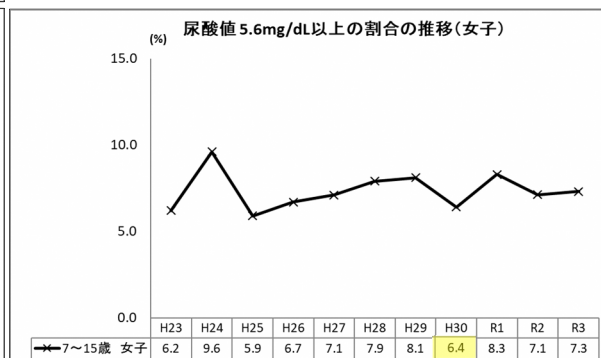
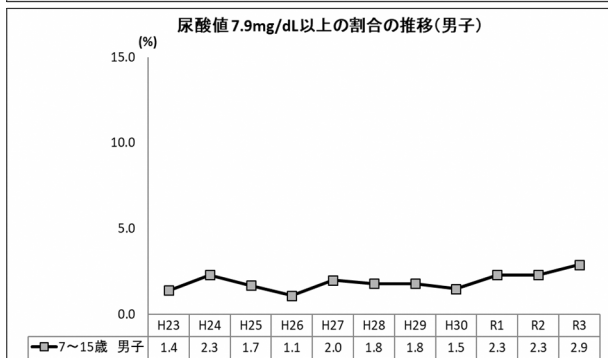
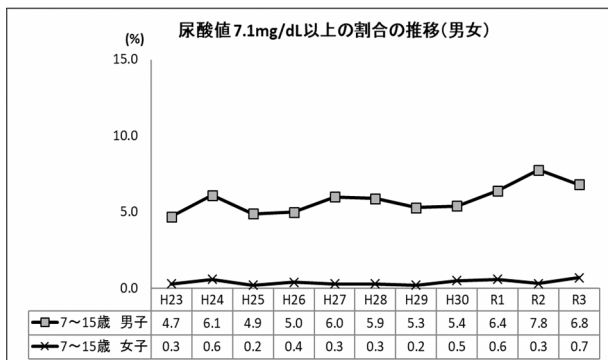
# 尿酸

## 1 結果

尿酸値 7.1mg/dL 以上の男子の割合は、平成 23 年度から令和 2 年度にかけてやや増加する傾向がみられたが、令和 3 年度はやや減少傾向がみられた。尿酸値 7.1mg/dL 以上の女子の割合では、大きな変化はみられなかった。

尿酸値 7.9 mg/dL 以上の男子の割合は、大きな変化はみられなかった。

尿酸値 5.6 mg/dL 以上の女子の割合は、増加と減少を繰り返す傾向がみられた。



## 2 グラフの説明

参考基準値をもとに、高尿酸血症を判定した。

## 3 参考基準値

日本痛風・尿酸核学会作成「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」による高尿酸血症の定義	尿酸値 7.1mg/dL 以上
日本臨床検査標準協議会設定共用基準範囲の上限を超える値	尿酸値男性 7.9mg/dL 以上 および女性 5.6mg/dL 以上